

会報 (第9号)

目次

- 特集：ドン・サクベイ・ノモト —
日ア友好親善のシンボル
- メネム政権二期目の課題
- アルゼンチン近況
政治・経済
- アルゼンチンに留学（サッカーを含む）
- 日ア関係諸行事
- 文化行事のお知らせ
・タンゴ演奏会等
- その他のお知らせ
・アルゼンチン旅行ご案内等
- 人事往来



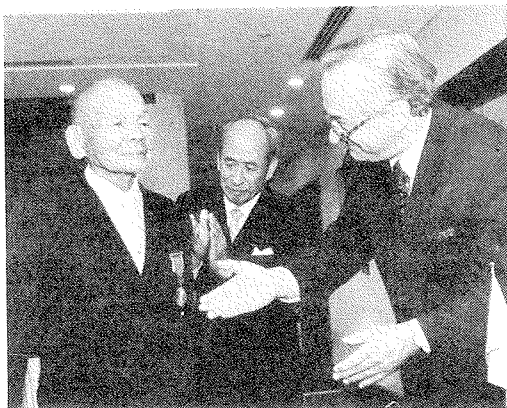
法人団
日本アルゼンチン協会

会報第九号 一九九五年七月二十五日発行

編集人 野村 秀治
集人 渡部 透

千代田区内幸町一ノ二ノ二
日比谷ダイビル一七〇五号室
電話 (三五〇二) 四六八四番
FAX (三五九五) 三九三二番

特集：ドン・サクベイ・ノモト
日ア友好親善のシンボル



1995年6月23日、今年9月に100歳の誕生日を迎える野本作兵衛さんは茨城県猿島郡境町立長田小学校石川治男元校長に支えられながら、しかし胸を張って大使ホセ・ラモン・サンチス・ムニョス閣下の祝辞を聞いていた。(写真)

元麻布のアルゼンチン大使公邸、3階サロンには大使館、境町議会、小学校、外務省、当協会の関係者30名近くの人達が熱い視線を古武士のような野本さんに注いでいた。

友情の芽ばえ

「60年以上まえ、茨城の名門の子孫、当時青年であつた野本さんはある新聞記者（報知新聞）の仲介で、東京のアルゼンチン公使館を訪れました。そこでアルバレス・モンテネグロ公使にお会いになり、貴重な贈り物（刀剣）を公使とドメック・ガルシア提督に贈呈されました。」

歴史家でもあるサンチス大使の祝辞は、史実に基づき静かに語りかける。

「野本さんの友情に深く感動した公使は、境町を訪問し公使の母親を紹介したり野本さんのご母堂にあうなど友好関係は深まり、より人道的なものになりました。」

当時はいまとは全く異なる時代でした。モンテネグロさんが訪れた小学校の地方には電話はなく、その様子を記事にするため伝書鳩を飛ばしていました。村には自動車は一台しかなかったそうです。そのため村の青年団や小学生たちは村道から入り口までの道に砂利をまき旗を振って出迎え、公使は大変感動したそうです。

二人を結んだ友情のもとにモンテネグロさんは、長田小学校生徒のために奨学金制度をつくり、1935年（昭10）から1941年（昭16）まで合計35人の生徒に奨学金を贈りました。そのほか多くの贈り物を小学校に寄付し、野本さんとの友情を育んできました。この友情あふれる絆が、その後のアルゼンチンと長田小学校の友好的な繋がりを強めていく基になりました。」

「そして、戦争によってもたらされた悲しい断絶の年月がすぎました……。」

キズナの復活

しかし、1965年（昭40）カーノ大使がこの繋がりを復活させ、小学校を訪れました。そこには、この固い絆を証明するかのようになり、かつて奨学金をうけた人たちが立派に成人して、大使を迎えてくれました。」

「それから数多くの接触、例えばロス大使をはじめ多くの大使館員、他の機会には日本アルゼンチン協会、文化交流協会の方々、世界一周航海をしていたアルゼンチン海軍士官候補生たちの小学校訪問など、これらの友好的な交流の場には、いつも野本さんが出席しておられました。」

友情の生けるシンボル

従いまして、野本さんは<日本とアルゼンチンの不滅の友情の生ける象徴>であることに鑑み、またそのお人柄、地方の有力者であり、境町の文化会会長、小学校に物心両面で貢献された方、さらに日本の伝統とあらゆる美德の象徴であり、われわれの友情を培っていただいた人物であることに鑑み、アルゼンチン政府は<五月功労勲章・騎士章>の叙勲を決定し、アルゼンチン大統領カルロス・サウル・メネム氏が栄えある勲章を、野本さんに授与することになりました。」

ついで、ゴンサレス・デ・シン書記官が、「勲記」を読み上げ、深紅の勲章「オルデ

ン・デ・マージョ」が大使の手により野本さんの胸にかざられた。拍手をうけた100歳のサムライは、大きな声で力強く答辞、

「身に余る勲章をいただき、大変感謝しています。モンテネグロさんをなつかしく思いいたします。アルゼンチンのみなさんによろしく」ついで一同の乾杯。

老人クラブ

英文毎日（7月12日付参照）や境町広報部の記者たちのフラッシュを浴びながら、大使夫妻や列席者と入れ替わり立ち替わり記念写真をとりながら、野本さんはこんな話を披露して一同を笑いに包んだ。

「モンテさんが村へきて、青年達のために集会所（モンテネグロ会館）を建てて寄付してくれました。またある時は、老人会を作れといわれ、70歳以上の老人20名で会を作りました。ある日、モンテさんはこの老人全員を東京のアルゼンチン大使館へ招待してくれました。そこでは見たこともないご馳走が山のように出されました。そしてテーブルのうえにあったナイフとフォーク、誰も使い方を知りません。モンテさんは老人一人ひとり、手を取って教えてくれました。」

アルゼンチン・ワイン

モンテネグロ公使から60年まえに貰ったというアルゼンチン・ワインをいまでも大切に保管しているという野本さん。

「鈴木貫太郎（終戦時の総理大臣、野本さんと同郷）の家で、吉田茂に一口飲ませたところ、これは大変いいワインだと感心されたので、その後、封をして大事にもっているんです。」これを聞いた大使夫人、早速ワインを野本さんに贈り、

「ノモトさん、60年後に元気でこのワインを飲んでください。」

同夫人の粋な計らいに一同深く胸を打たれ、温かい友情の輪は最高潮となって広がっていった。

9月11日は野本さん100歳の誕生日。サンチス大使は日程に支障がなければ境町を訪れたいなど、楽しい会話がはずんだ。（つづく）

（括弧内は、当協会事務局の調査による（7月19日付日本経済新聞最終頁文化欄ご参照）。次回はドン・ノモトとモンテネグロ公使との出会いにいたる数奇な運命を掲載予定。それは1853年（嘉永6年）、ペリー艦隊の浦賀上陸に始まります。）

メネム政権二期目の課題

カバロ教祖の留任

5月14日（日）、再選が決まった直後の記者会見でメネム大統領は、カバロ経済相が今後もアルゼンチン経済の舵取りにあたることを発表した。国民の「信仰」の的

ある兌換法体制の「教祖」が留任するというわけである。メネム再選とカバロ留任は、メキシコ金融危機以来沈滞ムードの続くアルゼンチン経済に大きな安堵感を与える出来事であった。

メキシコ金融危機の影響回避のために3月半ばに発表された資金調達パッケージは、公務員給与削減、間接税の3%アップ、輸出払い戻し削減等の内容を含む厳しいデフレ政策であり、経済は深刻な不況局面に入っていたが、大統領の再選を機に株式市場、債券市場ともに力強い回復基調を見せ始めており、メキシコ金融危機発生時点の水準に近づきつつある。預金の更新も順調で、20%以上だった預金金利は10%近くまで低下している。

わが国輸銀も700億円融資

国際金融機関の支援という追い風もある。4月にはIMFが拡大信用供与を1年延長することを決定（24億ドル）、このうち12億ドルが、昨年返上した分（4億ドル）と合わせてディスバースされた。これに並行する形で、5月に入り日本輸出入銀行が8億ドルの融資（一般輸入資金に充当）を決定した。メキシコ金融危機で弱さが露呈した金融システムの改革、さらには州立銀行民営化といった懸案についても、世銀、IDB（米州開発銀行）の支援が予定されている。選挙を境に、アルゼンチン経済は金融危機の後遺症を克服し、再び順調な足取りで発展していくようにも見える。

兌換法が足枷にも

しかし実際にはそう甘くはない。兌換法体制の下では、国内のペソの流通が外貨準備内に抑えられているから、外貨準備が減れば国内の流動性も低下していくことになる。メキシコ金融危機ではまさに恐れていたことが起きた。国際金融市場での安易な資金調達の道が閉ざされ、ドルが周辺国に逃避したため、外貨を約150億から100億ドルまで取り崩した。結果として流動性逼迫が起き、足腰の弱い銀行10行が営業停止、50行が吸収合併の対象になった。その後外貨準備は積み増しされているが、資金が豊富に流入しなければ、流動性への不安は解消されない。インフレ退治に絶大な効果を発揮した兌換法が、アルゼンチン経済の手足を縛ることにもなりかねない。

経済成長と社会安定の二足のワラジ

他方、このところの不況で輸入が落ちこんでいるせいもあり、貿易収支は改善の方向にあるが、大幅な貿易赤字（94年末で60億ドル）が直ちに削減されるわけではないし、結果として経常収支赤字（94年末で100億ドル）も削減の見通しが立たない。また、今後も毎年100億ドル近い債務の返済期限が到来する。兌換法が招くジリ貧状態の中で経常収支赤字と債務支払いにどう対処していくのか。まさか今年のような国際金融界の支援を毎年要請するわけにもいかない。

国民が厳しいデフレ政策に理解を示し、メネム政権を支持しているのも、「兌換法を信じていれば、少なくとも6年前あるいはそれ以前の経済混乱に逆戻りすることはない」という過去の記憶に支えられている面が強く、苦しい生活が続けばそうした「信仰」がいずれは薄れ、社会問題未解決に対する不満に取って代わられる可能性も排除できない。第二期メネム政権が社会政策への一層積極的な取り組みを求められていることは間違いない。

「ポピュリスト政権自らによる脱ポピュリズム路線」として「様変わりの中南米」の最先端を走ってきたメネム政権が、経済成長と社会の安定の両立という中南米諸国共通の悩みにいかに取り組むか、二期目の政策運営が注目される。

(筆者：外務省中南米局中南米第一課 青山健郎氏

ラテン・アメリカ時報 6月号より抜粋)

アルゼンチン近況

◎政治・経済

○5月14日に行われた大統領選挙でペロン党から立候補したメネムが49.92%の得票率で当選、7月8日に大統領に就任することになった。

今回の選挙の特徴は、①国民は経済の安定を達成した現メネム政権の継続を求めたこと、②野党第一党のフレパソから立候補したボルドン（得票率 29.29%）はペロン党より離党した政治家であり、今回の選挙はペロニスト同志の闘いだったこと、③100年の歴史をもつ急進党は得票率 16.99%で悲惨な結果だったことである。

○銀行再編成が進んでいるが、アルゼンチン銀行協会（ADEBA）のまとめによれば94年12月20日から95年6月6日までの間に、銀行40行、ノンバンク8社が合併、清算などにより消滅し、この結果銀行数は132行（内4行は営業停止中）、ノンバンクは33社（内4社は営業停止中）となった。

○ブラジル政府は貿易収支改善策として6月、自動車輸入割当制度（95年下半年期 10万台）を発表した。自動車貿易問題についてメネム大統領とカルドゾ大統領との会談で、30日間の協議期間を設けること、その期間中ブラジルはメルコスール加盟国には輸入制限を行われないことで合意した。アルゼンチンの輸出を支えているのはブラジル向自動車輸出でありブラジルの輸入規制はアルゼンチン経済に大きなインパクトを与えるのみならず、欧米自動車メーカーの対亜投資計画への影響が懸念される。

○不況により税収の落ち込みが大きいことから、対IMF財政収支目標達成のため次の措置をとった。①6月分の公務員給与支給を7月第一週に行う（433百万ドル）、②個人資産税の納税時期を2カ月早めて6月末とする（約300百万ドル）、③金融債務

を除く政府債務の支払いを7月に延期する（約130百万ドル）。

- カバロ経済大臣が6月6日アルゼンチン経済の「リセッション入り」を容認する発言をしたことから翌日株式債券価格は大幅に下落した。カバロ大臣は「リセッション入り」を否定、さらに銀行関係者を集めてIMF財政収支目標達成は問題ないと強調した。
- コルドバ州の財政悪化により急進党のアンヘロス知事は公務員給与支払その他州債務支払いを州債によって行う法案を州議会に提出した。公務員はこれに抗議デモで反対、コルドバ州は緊張が続いている。アンヘロス知事は銀行借入れにより問題解決をはかろうとしている。メネム大統領、カバロ経済大臣は州救済のための資金援助はしないとの方針を明らかにしている。

（筆者：東京銀行 小林晋一郎氏）

◎大来財団の活動

○日ア民間企業アンケート結果

大来財団は1994年11月から1995年3月にかけてJICA ベース第2次アルゼンチン経済開発調査に協力しア国民間の代表的企業177社に対し“アルゼンチンの日本をはじめとする東アジア向け貿易・投資促進に係るアンケート”を実施、93社より回答を得ました。この回答を1994年7～8月に（財）国際開発センターが日本民間企業に実施した同じテーマのアンケート結果と比較・対照を行った結果、下記の興味ある内容となりました。

1. ア国企業は、貿易については71%、投資については98%が日本をはじめとする東アジア市場の成長を認識し促進・拡大を望み、かつ、その可能性ありと見ている。一方、日本企業は、貿易については36%がア国の考えを肯定し、投資については73%がその可能性ありとしている。
2. ア国が輸出拡大を望みおる国は日本、中国、韓国、マレーシア、台湾の順であり、投資を期待している国は日本、中国、韓国、台湾の順である。いずれも日本が“だんとつ”である。
3. 輸出拡大期待分野は食料一般（一次産品他）、食品加工、農牧産品、水産品の順で圧倒的に食料分野である。特に昨今の円高やガット合意に伴う日本の市場開放、輸入拡大等に大いに期待している。
4. 投資期待分野はア国側期待が自動車並びに同部品、エレクトロニクスの順であるのに対し日本側が可能性ありとしているのは食品加工、鉱業の順で3番目に自動車関連となる。
5. メルコスール並びにチリ市場についてはア国企業の86%が主としてブラジル、チリ向けに業務提携、合併、合併、子会社／販売網設立等のアクションをとっているのに対し、日本企業は71%が投資先として興味ありとしながら既にアクションをと

っているのは20%、早急にとることを考えているのは17%、残りは考えていないか未回答である。また、投資を考えるとすればブラジル(63%)、アルゼンチン(22%)、チリ(15%)の順である。

6. ア国企業はメネム第1次政権下の4年間で国際競争力の向上が絶対必要との意識改革がなされ主として下記の順に改善されたとしている。

- 1) 企業の合理化、近代化
- 2) コスト引き下げ
- 3) 経済政策効果(兌換法、開放経済、輸入自由化、民営化等)
- 4) 食料衛生管理向上
- 5) 輸出市場、消費嗜好の理解
- 6) マーケティング活動強化
- 7) 輸出インフラ整備

7. 但し依然として日アの相互理解不足が大きいとして主として下記改善策があげられている。

- 1) 経済のみならず文化、観光、スポーツ、学術等の総合交流の拡大・緊密化
- 2) マーケティング活動の強化
- 3) ア国産品のコスト引き下げ(輸出金融強化・輸送コスト下げ等)
- 4) 品質、衛生管理向上

○アンケート結果を踏まえての筆者コメント

率直に言って、ア国の片思いと日本側の無理解・無関心の擦れ違いが感じられません。確かに、日本にとっては、諸般の条件よりして対北米・アジア偏重は当然であるかも知れません。

一方、ア国としても北米、ブラジル向けの貿易・投資拡大を計りつつ同時に東アジアの高い成長性を踏まえ出遅れを取り戻したいとのしたたかさが感じられます。

日ア双方に遠距離や文化の違いと言うハンディがあることを承知したうえで、ア国側が日本に大いなる魅力を感じていることは明らかですが、一方、ア国が日本にとって魅力のある国と写る要素は何があるかということになります。

筆者のつたない経験と知識から述べさせてもらえば、それは明らかにア国の食料輸出供給力だと思います。現在、ア国が世界の5指に入る食料輸出国にて特に、第2位の飼料穀物輸出国であり、牛肉に関しては口蹄疫さえ撲滅すればオーストラリアを凌ぐ良質肉の一大輸出供給力を備えていることは余り日本に知られておりません。

日本は食料の6割を海外にたよる輸入大国であります。21世紀に入り中国、インド等の急速なる人口増加等の要因に伴う食料需要増により世界的食料不足が予想されています。現在、膨大な貿易黒字にものをいわせ買い手市場の飽食に慣れた日本ではありますが、近い将来、起こり得る不測の経済変化や食料危機にそなえ子孫の為に今から(ラブコールされているうちに)アルゼンチンとの相互補完的経済強化を計ることは大いに意義があるものとする次第です。

(筆者：大来財団 日本評議委員会 事務局長 斉木茂治氏)

アルゼンチンに留学（サッカーを含む） ホームステイ制度の紹介

当協会に中、高校生より留学（サッカーを含む）したいと照会があり、次のとおり回答しておりますので何ぞご参考迄に。

1. 中学生

①公、私立中学校は西語の理解が必要。

②アメリカン・スクールは英、西語バイリンガルの理解、一般的に授業料が高い。

③日亜学院（日系人子弟の小学部、なお中学部は96年創設予定）。

午前中はア国文部省カリキュラムによる西語授業、午後は日本語教育を行っている。

④ブエノス・アイレス日本人学校（日本文部省義務教育）

商社、メーカー駐在員、大使館員、JICA 職員の子弟等を、小・中学部に受け入れている。

上記①、②、③については、下宿がないので、アパートを借りて自分で生活の雑事を一切やることになる。又、地方の日系子弟を対象とした日系学生センターが首都ブエノス・アイレスにあるが、日本人を受け入れてくれるか、又スペースがあるか疑問である。結論としては、中学生の単身留学は困難と思われる。

2. 高校生

エイ・エフ・エス 日本協会（AMERICAN FIELD SERVICE、本部ニューヨーク）が1年間の高校留学生を募集している。

アルゼンチン側は毎年日本より受け入れており、本年は6人の枠がある。ホームステイ接受先はブエノス・アイレス州以外の州都市の家庭である。

連絡先：AFS 日本協会 Ⅸ 03 - 5251 - 0173

AFS 以外の留学は上記1のとおり、下宿、言葉の問題があり、高校生といえどもア国在住の知人、友人の理解、協力がなければ単身留学の実現は難しい。

3. サッカー留学

現在、ブエノス・アイレス州内でサッカー留学生（主として高校生以上）を受け入れている邦人は次のとおりですので、ご関心のある方は直接先方へ照会願います。

① 和 後 誠 治（わご せいじ）

（イ）住所 Colonia Urquiza Melchor Romero, La Plata, Pcia. Bs. As.,
Argentina

(ロ) 電話 021 - 914247

(ハ) 費用 最初の1カ月 約1900ドル
2か月目以降 約1300ドル

② 金城武市 (きんじょう たけいち)

(イ) 住所 Zapiola 4797, Jose C. Paz, Pcia. Bs. As., Argentina

(ロ) 電話 0320 - 26668

(ハ) 費用 最初の1カ月 約1500ドル
2か月目以降 約1000ドル

なお、上記費用には、練習料、下宿代、食事(3食)代が含まれています。

見学(無料)又は体験入学(1日30ドル~50ドル)ご希望の方は「アルゼンチン物語」旅行を利用してのご参加は如何でしょうか。

事務局からのお願い

「個人会員および個人賛助会員」募集

当協会の構成員は「法人」を主体としていますが、このほか「個人正会員」(議決権有り)の制度があり、現在30数人がメンバーに登録されています。さらに文化活動への参加を主眼とした「個人賛助会員」制度(議決権なし)があり、広く当協会へのご支援をお願いしています。

個人会員制度の概要は次のとおりです。

① ☆正会員(定款上総会の構成員。議決権有り) 年会費 ¥10,000

☆賛助会員(定款上総会には非構成員。議決権なし。

その他は原則として正会員に準ずる) 年会費 ¥5,000

② 会報: 当協会の発行する「会報」をお届け(無料)することにより、日ア間の最新情報を文化、通商、経済などに亘って提供します。

③ 文化活動ないし演奏会などの催物のご案内、割引案内を行い、ご希望の分野にご参加(実費徴収)いただきます。

④ 定例総会のほか「親睦会」を開催し会員相互および在京大使館との交流を計ります。

アルゼンチンに関心の深いご友人、関係先の方々を、是非ともご勧誘ください。事務局にご一報あれば加入申込書を、ご本人あて郵送いたします。

投稿歓迎

「会報」についてのご感想、ご意見のほか会員の皆様からの消息、近況などの投稿(内容自由、ただしアルゼンチンに関連したもの)をお待ちしています。紙面の都合で止むなく、一部手直しさせて頂く場合がありますので、予めお含みください。

日ア関係諸行事

◎フロンデিশ元大統領逝去に対するお悔やみ

4月18日にフロンデিশ大統領が逝去したので21日にア国大使館へ斎藤英四郎当協会会長の代理として専務理事が弔問記帳を行った。

◎ウィリアム・ハドソンに関する講演会

前号でご案内のとおり、5月20日サントリー東京支社で会員等40名の参加をえて、自然保護の先駆者で博物学者兼作家のウィリアム・ハドソンに関する講演及び生家のスライド並びにVTR映画「緑の館」を上映し楽しい集いであった。

なお、別紙のアルゼンチン旅行案内でハドソン生家を訪問する日程が組まれているのでふるってご参加ください。

◎アルゼンチン革命記念日のミサ

アルゼンチン大使館は、恒例の5月25日の革命記念日レセプションに代わり、上智大学キャンパス内のクルトハイム礼拝堂において同日ミサを執り行い、サンチス大使夫妻、同大使館員、在留アルゼンチン人、関係邦人、当協会専務理事等が出席した。

◎第7回アルゼンチン大使館 — 長田小学校友好親善記念日の集い

6月3日（土）境町立長田小学校において、恒例のアルゼンチン大使館と同小学校との第7回友好親善記念日の集いが開催され、アギーレ同大使館参事官、当協会専務理事等が出席、同校生徒による音楽演奏、カミニート斉唱（原語）及び野本作兵衛氏に花束贈呈が行われ、盛会に終了した。

長田小学校とアルゼンチン大使館との結びつき（会報第6号及び本号のドン・サクベイ・ノモト特集参照）は昭和9年までさかのぼる長い歴史があり、同小学校は歴代の駐日ア国大使と60余年間友好親善関係を継続しており、毎年6月2日を「アルゼンチンの日」として記念の集いを続けている。

文化行事のお知らせ

◎池田光夫タンゴ生活45周年記念リサイタル

9月27日(水) 18:30 川崎市麻生市民館大ホール

(小田急線 新百合ヶ丘駅下車、徒歩2分)

演奏: 池田光夫とロス・アミーゴス

歌: 阿保都夫

ゲスト: 中島啓江(オペラ歌手)

朗読詩: 池田まり子

司会: 志摩夕起子

入場料: ¥4,000(当協会会員は¥3,600) 全指定席

主催: 日本タンゴ演奏協会

後援: アルゼンチン大使館、当協会等

連絡先: 池田光夫(当協会会員) ☎03-3489-2519

◎タンゴフェスティバル

9月24日(日) 14:00 及び 18:00 サントリーホール

演奏: アルゼンチン・タンゴ・グランド・オーケストラ

歌手: ラウラ・ピニエイロ及びロベルト・アジャラ

踊り: ポチ・ルナとアドリナ・バシーレ 他1組

料金: S 6,500円 A 5,000円 B 4,000円(税込み)

主催: TBS/サントリーホール

後援: アルゼンチン大使館

連絡先: サントリーホール・チケットセンター ☎03-3584-9999

◎エドゥアルド・デルガードのピアノ・リサイタル

(アルゼンチン国ロサリオ出身)

9月29日(金) 19:00 草月ホール(赤坂7丁目)

(銀座線 青山1丁目駅下車)

入場料: ¥4,000(全自由席)、学生(¥3,500)

主催: 楽企画

後援: アルゼンチン大使館

連絡先: 中川 滋(当協会会員) ☎03-5640-4324

その他のお知らせ

◎平成7年度 当協会通常総会終了

前号でご案内のとおり、平成7年度当協会の第39回総会（兼理事会）が平成7年5月23日（火）午後2時半より、日比谷ダイビル会議室において開催された。会員出席64名（委任出席40名を含む）が参集し、前年度決算報告、本年度事業計画及び同予算案等が原案どおり承認決定された。なお、任期2年の理事及び監事が次のとおり選任されましたので、会員皆様による尚一層のご支援をお願い申し上げます。（敬称略：順不同）

会 長	齋 藤 英四郎	新日本製鉄株式会社 相談役名誉会長
副 会 長	近 藤 四 郎	元駐アルゼンチン大使
	近 藤 鎮 雄	大阪商船三井船舶株式会社 相談役
専務理事	野 村 秀 治	元 ロサンゼルス市港湾局 在日代表
理 事	高 垣 佑	株式会社東京銀行 頭取
	箭 内 陽	三井物産株式会社 海外統括部長
	河 崎 勲	元 株式会社NHK情報ネットワーク 専務取締役
	藤 本 芳 男	財団法人世界の動き社 理事長
	風 間 孝 晴	元 国際協力事業団 理事
	亀 崎 英 敏	三菱商事株式会社 米欧業務部 部長
	田 中 庸 夫	株式会社日立製作所 専務取締役
	和 久 本 芳 彦	株式会社 東 芝 専務取締役
	松 島 宏	住友商事株式会社 理事
	渡 邊 晴 郎	丸紅株式会社 常任顧問
	高 野 尚 彦	伊藤忠商事株式会社 常務取締役
	近 藤 尚 武	日本郵船株式会社 取締役
	今 永 文 男	日本水産株式会社 相談役
	大 隈 信 幸	日本ウルグワイ協会 会長
	上 田 一 明	本田技研工業株式会社 二輪事業本部 米州部長
	佐 藤 和 男	大阪商船三井船舶株式会社 常務取締役
	上 田 将 雄	川崎重工業株式会社 相談役
	西 岡 稔	ダイビル株式会社 専務取締役
	鈴 木 銀 生	日本電気株式会社 取締役支配人
	土 屋 桃 子	ジャパンアートルネッサンス協会 理事長
	山 本 学	上野学園大学教授
	山 下 洋二郎	住友海上火災保険株式会社 常務取締役
	斉 木 茂 治	大来財団日本評議委員会 事務局長

監 事 沢 木 忠 男 株式会社東京銀行 中南米部長
安 田 直 弘 株式会社 安 田 代表取締役

◎会費の納入について

平成7年度会費（法人会員、個人正会員、賛助会員）につきましては、請求書を夫々の会員各位宛送付致しましたので、未納の方はよろしくお願い申し上げます。

◎在アルゼンチン日本大使館の新住所

6月5日に次の住所に移転しました。

EMBAJADA DEL JAPON EN LA ARGENTINA,
BOUCHARD 547 PISO - 17, BUEONS AIRES, ARGENTINA.

代表電話番号：(54 - 1) 318 - 8200

FAX 電話番号：(54 - 1) 318 - 8210

◎アルゼンチン旅行「アルゼンチン物語」ご案内

当協会は近畿日本ツーリスト（千代田支店）に協力し、在京アルゼンチン大使館の後援を得て、別紙の日程（オプションとしてバルデス半島ツアー不参加者のために、ゴルフ・プレーまたはサッカー留学先の見学アレンジ可）を企画致しましたので、お誘いの上参加くださるようご案内申し上げます。

◎講演会「最近の中南米情勢」

日 時：平成7年8月7日（月）13：30～15：00

講 師：堀村隆彦 外務省中南米局審議官

会 場：アミー・ホール（会費不要）

（地下鉄・表参道駅下車、徒歩5分、青山学院大学前、「子供の城」となり）

主 催：社団法人 ラテン・アメリカ協会

人 事 往 来

1 来 日

- マガリーニョス工業庁長官 6月3日～10日
- エイナウディ・アルゼンチン工業連盟副会長 6月3日～10日
(自動車部品産業セミナー)

2 訪 ア

- 水野 清 衆議院議員夫妻 7月7日～9日
(メネム大統領就任式特派大使)

3 外務省人事異動 (8月4日発令予定)

- 荒船清彦 中南米局長→佐藤俊一中南米局長

あ と が き

◎会報編集委員のプロフィール (ABC順)

本年度の会報編集委員は下記の方々にお世話願っております。

- ①氏名 ②勤務先 ③☎/FAX ④ブエノス滞在および勤務先
- ⑤一口コメント

- ①藤本芳男 ②(財)世界の動き社理事長 ③3436 - 5280/3436 - 5240
- ④1989 - 91、駐アルゼンチン大使
- ③3年前に外務省を退官。上記職のほか富士銀行顧問などお陰さまで忙しくしています。此の8月、また長野岡山県知事のお供でブエノスにお邪魔する予定です。

- ①福島 穆 ②NECロジスティクス(株)取締役 ③5441 - 6801/5441 - 6842
- ④1979 - 83、NEC ARGENTINA S. A.
- ⑤タンゴのお店が閉店されています。日本から、熱い声援をおくりたいものです。
TANGO ES PARA SIEMPRE.

- ①金井博智 ②国際マリントランスポート(株)取締役
- ③3805 - 4562/3805 - 4572 ④1987 - 92、商船三井
- ⑤アルゼンチンといえば大草原と緑の風。アンデスのふもとのポプラ並木。青い空にとけこむハカラランダの紫の花。石畳にひびくバンドネオンのやるせなさ。

①小林晋一郎 ②(株)東京銀行海外部理事 ③3245-9401/3246-2515
④1965-67、1989-92、東京銀行ブエノスアイレス支店
⑤会員の皆様にホットな政治、経済のトピックスをお届けし、日ア交流促進に努めたいと存じます。

①西岡 稔 ②ダイビル(株)専務 ③3506-7441/3591-6156
⑤商船三井に勤務していた1968年に、メンドサの石油精製プラント資材輸送の調査のため、約1カ月滞在しアンデスの山麓までパンパを車で往復しました。その時の強烈な印象が、ア国を忘れ難くしています。

①野村秀治 ②(社)日ア協会専務理事 ③3501-4684/3595-3932
④1960-63、大阪商船
⑤遥かなノスタルヒアが現実になりました。21世紀を見据えて、「日アの草の根交流」のために、余生を惜しみなく捧げたいと願っています。

①斉木茂治 ②(財)国際開発センター主任研究員 ③3630-8031/3630-8095
④1966-74、1980-84、1986-92、ア国三菱商事
⑤現在 JICA 経済協力案件ア国第二次経済開発調査に従事、大来財団日本評議委員会事務局長と日ア協会理事を勤めています。

①辻 正隆 ②郵船フレッシュチェーン(株)代表取締役
③3506-0570/3506-0575 ④1988-91、日本郵船
⑤ビノ、タンゴ、パンパ、アサード、ノーチェ・エン・ブエノスアイレス。遠ざかりつつある思い出が、この会報で懐かしくよみがえります。

①渡部 透 ②(社)日ア協会事務局長 ③3501-4684/3595-3932
④1991-93、在ア日本大使館領事
⑤3年間、ブエノス市郊外のゴルフ場で棒ふりに熱中したわりには、腕が上がり残念でした。

◎次号(第10号)は10月発行の予定です。